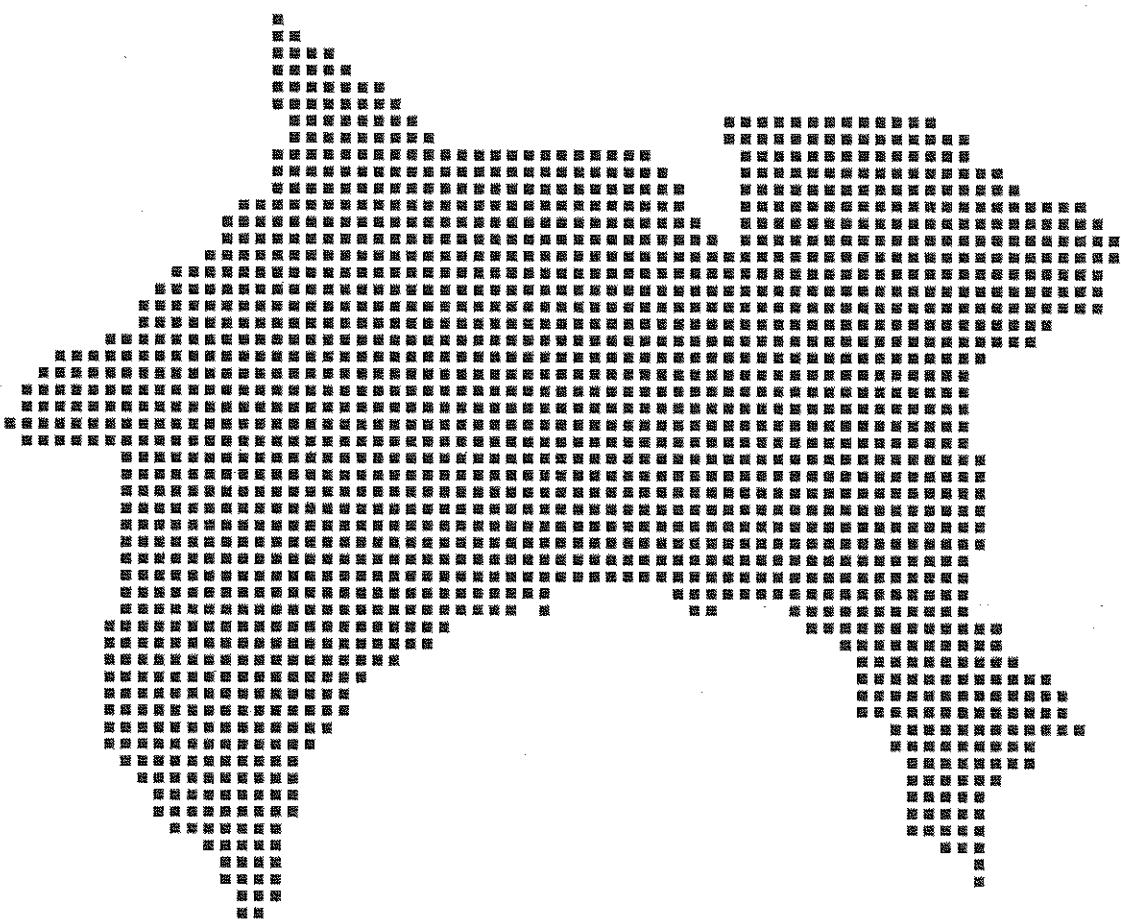


神奈川県手話テキスト 指導書



神奈川県

☆講習時間 60 分、120 分の場合

* 60 分の場合、教えられる事は限られているので手話中心より聴覚がいい者について理解を深めることを中心とするといいます。

指導案の時間配分は、一つの目安です。

※依頼者（企業）の希望により割合を調整してください。

この指導書は神奈川県の手話テキストを使用する際に指導の参考になればと思い、作成したもののです。あくまでも参考ですので講師が工夫して充実した内容の講習を作っていました。テキストは企業向けとなつており、講習時間が 60 分及び 120 分で一回だけの講習、90 分で 5 回の講習を想定しています。

手話講習時間割

年 月 日 曜 令 午 前 午 後	午 前 午 後	午 前 午 後
午前	午後	午前
午後	午前	午後
午後	午後	午前
午後	午後	午後

②コミュニケーション方法について（テキスト 3 ページ）

・手話・身振り・口話・筆談・指文字・補聴器・触手話
特に身振りは健聴者も自然（ダメ、お酒飲む等）に表現していることもありますと身近に感じる。

※会話をするとときの配慮
相手に合わせた工夫と共に、伝える意識の大切さを説明する。

③見えないことについて（テキスト 5 ページ）
※受講者が一番知りたいことなので時間をかける。
注意することは講師が一方的に話すのではなく、受講者に質問して受講者が答えるという、受講者が自分で考えて答えるスタイルで進めるようにするといい。

（テキスト事例①）
「マスクをしたまま話すと、何を言われているのかわからな
い。それはどうしてでしょうか？そしてどうすれば良いでし
ょか？」と質問して何人か受講者を指して話してもらう。
又は 1 ページのコンビニ編の悪い例の動画を見せてから質
問というやり方も出来る。

※テキストの事例だけでなく、講師が他に困ることを加えると
良い。
☆このテキストは金融、飲食、物販それぞれの事例が載っています。
※受講者に合わせて指導をお願いします。

手話指導について（別紙の單結集）

* 60 分の場合は時間の関係上、覚えるというより形の確
認程度に。講習後、テキストの動画を見ながら練習と伝
える。

* 120 分の場合は余裕があるのでじっくり指導するか、単
語を増やして指導するかは受講者を見て判断する。
* ①、②は手話だけでなく、表情、口形も大切と説明。
* 受講者に知りたい手話があるか聞いてみる。

☆講習時間 90 分 5 回連続講座の場合☆

* 指導案の時間配分は、一つの目安です。

* 依頼者（企業）の希望により割合を調整してください。

☆横の指導案は 5 回の内の 1 回目と 5 回目です。

1～5 回目の進め方は指導書の 1 ページに載っている「講習時間 60 分、120 分の場合」と同じように進めてみてください。

☆ 講

5 回あるので、下記のように 5 回に分けて、じっくり深く指導します。

- ① 1 回目 「聴覚障がいについて」(テキスト P2)
- ② 2 回目 「聴覚障がい者のコミュニケーションについて」(テキスト P3～4)
- ③ 3 回目 「聴覚障がい者が困っている事例共通」(テキスト P5～6)
- ④ 4 回目 「聴覚障がい者が困っている事例」(テキスト P7～12)
- ⑤ 5 回目 「聴覚障がい者が困っている事例～非常時編～」(テキスト P13～14)

※④は派遣先の企業に合わせて置びます。例えば銀行関係の場合は「金融編 P7～8」を選びます。
※上の講義はあくまでも参考ですので順序が前後しても構いません。

※自分の体験を織り交ぜながら指導すると伝わると思います。

参考

● 聴覚障がい者が表現する「聞こえない」
耳を指す十手を振る
耳を指す十両手をクロスする
耳を基ぐ

店員側の対応

- ① 「温めますか？」などをジェスチャーで。
- ② ハッキリとゆっくり話す。
- ③ 筆記で
- ④ 手話で

※手話を対応するのがベストだが現実問題として難しい。
ジェスチャーが分かりやすい。

● 雷子ボードやスマホの筆談アプリなどのコミュニケーション支援

《よく聞かれる質問集》		
受講者 姓 氏 別 姓 氏 别	講師名 :	講師名 :
学生時代は聴覚障がい者の言葉が聞こえなくて困っていましたが、今は聞こえます。でも、まだ少し聞き取れません。	講師例：「しなければならない」と言うような二重否定的な答	は避けください。箇条書きが分かりやすいで
①筆談の際、分かりやすく書くということだが具体的には？	（解説例：「しなければならない」と言うような二重否定的な答	は避けください。箇条書きが分かりやすいで
②よくドラマなどで謳脣出来る人が実際のところは？	（解説例：講唇（口話）出来る人もいれば出来ない人もいる。人それ	ぞなのでお客様に合わせてください。）
③手話は全国（世界）共通ですか？	（解説例：日本語にも方言があるように手話も方言があります。）	
④手話がありますか？	（解説例：敬語がありますか？）	
⑤手話があるのとあるけどなぜですか？	（解説例：語源があるのとありますか？）	
⑥何年くらいで手話が使えるようになりますか？	（解説例：英語と同じですか？）	
⑦手話は英語と同じですか？	（解説例：手話は全国（世界）共通ですか？）	
受講者 姓 氏 別 姓 氏 别	講 師 姓 氏 別	講 師 姓 氏 別
学生時代は聴覚障がい者の言葉が聞こえなくて困っていましたが、今は聞こえます。でも、まだ少し聞き取れません。	このような質問に答えられるように前もって調べると良い。	いい質問ですね！逆にあなたはどう思いますか？
①手話は受けるだけでなく、例えば下のように受講者に考え方させ	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
②手話も地域によって違うかな～？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
③手話は英語と同じですか？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
④手話がありますか？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
⑤手話があるのとあるけどなぜですか？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
⑥何年くらいで手話が使えるようになりますか？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別
⑦手話は英語と同じですか？	（例）	受講者 姓 氏 別 姓 氏 別

手話指導【60分間】指導案

平成 年 月 日 ()		講師名 :		
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への対応方法(コミュニケーション方法や配慮)について学ぶ。			(用意する教材) プロジェクター スクリーン 手話テキスト配布 単語カード
受講者観	ろう者と初めて会う。聴覚障がいについての知識がない。どう接したらよいのか、その方法がわからない。 理解を深め接客に役立てたい。			
時 間	学習の内容		指導者の支援	評価のポイント
00:00 (10分)	あいさつ 学習のねらい、流れの説明を聞く		学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れるようする	講座の目標が理解できたか。
導入	聴覚障がい者と会った経験、話した経験を聞く どうやってコミュニケーションを図ったかを聞く		これからの学びに絡め興味を持たせる	本日の学習に興味を感じたか。
展開1 (25分)	講義「聴覚障がいについて」を聞く ① 聴覚障がいの種類について *障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがある ② コミュニケーション方法について *コミュニケーションの方法を組み合わせ伝わるよう工夫する ③ 聞こえないことで困ること、不便なことについて *どんな時に困るのか(不便か)を考える *テキストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える		障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがあることに気付けるよう説明する 相手に合わせた工夫と共に、伝える意識の大切さを説明する 講師が説明するのではなく、受講生が考える時間を作る *どんな答えでも否定しないよう注意	種類とその違いが理解できたか。 相手に合わせて工夫することが理解できたか。 どんな配慮が必要か、考えることができたか。
(20分)	手話指導 ① あいさつの手話 ② 接客時に役立つ手話(基本)		表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援	正しく表現できるか。
(05分)	質疑応答 まとめ 終了		講座の大切だったことを繰り返して強調しておく。 本日の学びを基に、職場で実践できるよう意識を喚起させる	ねらいが達成できたか

手話指導【120分間】指導案（参考）

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習目標	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。 合わせて接客に役立つ手話を学習する。		(用意する教材) プロジェクト スクリーン 手話テキスト配布 単語カード
受講者観	ろう者と初めて会う。聴覚障がいについての知識がない。どう接してよいのかその方法がわからない。理解を深め接客に役立てたい。		
時間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (5分)	あいさつ 手話言語条例、推進計画について学ぶ 学習のねらい、流れの説明を聞く	講習会開催の経緯説明 学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れる ようにする	講座の目標が理解できたか。
導入 (10分)	聴覚障がい者と会った経験、話した経験を聞く ＊聴覚障がいとわかったきっかけを聞く ＊どうやってコミュニケーションを図ったかを聞く ＊外見からはわからない障がいであることを知る	これから学びに絡め興味を持たせる	学習意欲につながったか。
展開1 (60分)	講義 「聴覚障がいについて」を聞く ④ 聴覚障がいの種類について ＊障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがある。 ⑤ コミュニケーション方法について ＊コミュニケーションの方法を組み合わせ伝わる よう工夫する。 ⑥ 困ること、不便なことについて ＊どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる ＊テキストの事例をあげて考えてみる。 →自分に出来ること、対応方法を考える 講師の体験を聞く	障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがあることに気付けるよう説明する 相手に合わせた工夫と共に、伝える意識の大切さを説明する 講師が説明するのではなく、受講生が考える時間を作る。 ＊どんな答えでも否定しないよう注意	種類とその違いが理解できたか。 相手に合わせて工夫することを理解できたか。 どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(10分)	休憩		
展開2 (30分)	手話指導 ③ あいさつの手話 ④ 接客時に役立つ手話 ⑤ 会話してみましょう	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(5分)	質疑応答 まとめ 終了	本日の学びで大切なことを繰り返し強調する 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。

手話指導【90分間】指導案 ①(参考)

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。 併せて接客に役立つ手話を学習する。		(用意する教材) プロジェクト スクリーン ホワイトボード 手話テキスト配布 単語カード等
受講者観	ろう者と初めて会うので、聴覚障がいについての知識がない。 どう接してよいのかその方法がわからない。 理解を深め接客に役立てたい。		
時 間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (10分)	あいさつ 手話言語条例、推進計画について学ぶ 講習会のねらい、流れを理解する 本日の学習のねらいを知る	講習会開催の経緯説明 学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れる ようにする	講座の目標が理解できたか。
導入 (10分)	聴覚障がい者と会った経験、話した経験を出し合う。 *聴覚障がいとわかったきっかけは何? *どうやってコミュニケーションを図ったか?	これからの学びに絡め興味を持たせる	本日の学習に興味を感じたか。
展開1 (40分)	講義「聴覚障がいについて」を聞く ① 聴覚障がいとは *外見からはわからない障がいである *障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがある事を知る *講師の聞こえの程度を聞く ② 困ること、不便なことについて *どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる *テキストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える *講師の体験を聞く	障がいの程度や失聴した時期などにより、一人ひとり違いがあることに気付けるよう説明する *受講生から質問を受ける 講師が説明するだけでなく、受講生が考える時間を作る *どんな答えでも否定しないよう注意 ・受講生から質問を受ける	その違いが理解できたか。 どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(20分)	手話を学ぶ ③ あいさつの手話 ④ 会話してみましょう	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(10分)	質疑応答 まとめ 終了	本日の学びで大切なことを繰り返し学ぶ 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。

手話指導【90分間】指導案 ②(参考)

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。 合わせて接客に役立つ手話を学習する。		
時間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (5分)	あいさつ 本日の学習のねらい、流れを知る	学習目標を伝える。 目標を理解して学習に入れる ようにする	講座の目標が理解できたか。
導入 (10分)	前回の学習の振り返り	これから学びに絡め興味を持たせる	本日の学習に興味を感じたか。
展開1 (45分)	講義 「聴覚障がいについて」を聞く ① コミュニケーション方法について知る *コミュニケーションの方法を組み合わせ相手に 伝わるよう工夫する ② 困ること、不便なことについて知る *どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる *テキストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える *講師の体験談を聞く	相手に合わせた工夫と共に、 伝える意識の大切さを説明する ・受講生から質問を受ける 講師が説明するのではなく、受講生が考える時間を作る *どんな答えでも否定しないよう注意 ・受講生から質問を受ける	相手に合わせて工夫することを理解できたか。 どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(20分)	手話を学ぶ ① あいさつの手話 ② 接客時に役立つ手話 ③ 会話してみましょう	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(10分)	質疑応答 まとめ 終了	・受講生から質問を受ける 本日の学びで大切なことを繰り返し学ぶ 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。

手話指導【90分間】指導案 ③(参考)

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。 合わせて接客に役立つ手話を学習する。		(用意する教材) プロジェクト スクリーン ホワイトボード 手話テキスト配布 単語カード
受講者観	聴覚障がいについての知識は少しずつ理解しつつあるが、 まだまだどう接してよいのかその方法がわからない。		
時 間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (5分)	あいさつ 本日の学習のねらい、流れを知る	学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れる ようにする	講座の目標が理解できたか。
導入 (10分)	前回の振り返り	これからの学びに絡め興味を持たせる	本日の学習に興味を感じたか。
展開1 (45分)	講義 「聴覚障がいについて」を聞く 困ること、不便なことについて知り、考える *どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる *キストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える *講師の体験談を聞く	講師が説明するだけでなく、受講生が考える時間を作る *どんな答えでも否定しないよう注意 *受講生から質問を受ける	どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(20分)	手話を学ぶ ① あいさつの手話 ② 接客時に役立つ手話 ③ 会話してみましょう	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援 ・受講生から質問を受ける	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(10分)	質疑応答 まとめ 終了	本日の学びで大切なことを繰り返し学ぶ 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。

手話指導【90分間】指導案 ④(参考)

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。 合わせて接客に役立つ手話を学習する。		(用意する教材) プロジェクト スクリーン ホワイトボード 手話テキスト配布 単語カード
受講者観	聴覚障がいについての理解は学習しつつある。 接し方を自ら考えるようになりつつある。		
時 間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (5分)	あいさつ 本日の学習のねらい、流れを知る	学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れる ようにする	講座の目標が理解できたか。
導入 (10分)	前回の振り返り	これからの学びに絡め興味を持たせる	本日の学習に興味を感じたか。
展開1 (35分)	講義 「聴覚障がいについて」 困ること、不便なことについて知り、考える *どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる *テキストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える *講師の話を聞く	講師が説明するだけでなく、受講生が考える時間を作る *どんな答えでも否定しないよう注意 *受講生から質問を受ける	どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(30分)	手話を学ぶ ① あいさつの手話 ② 接客時に役立つ手話 ③ 会話してみましょう	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(10分)	質疑応答 まとめ 終了	*受講生から質問を受ける 本日の学びで大切なことを繰り返し学ばせる 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。

手話指導【90分間】指導案 ⑤(参考)

平成 年 月 日 ()		講師名 :	
学習のねらい	聴覚障がいについての理解を深めると共に、聴覚に障がいがあるお客様への配慮(コミュニケーションや対応方法)について学ぶ。合わせて接客に役立つ手話を学習する。		
時間	学習の内容	指導者の支援	評価のポイント
00:00 (5分)	あいさつ 本日の学習のねらい、流れを知る 前回の振り返り	学習目標を伝える 目標を理解して学習に入れる ようにする これから学びに絡め興味を持たせる	講座の目標が理解できたか。 本日の学習に興味を感じたか。
導入 (5分)			
展開1 (15分)	講義 「聴覚障がいについて」について復習 ① 困ること、不便なことについて知り、考える ＊どんな時に困るのか(不便か)を想像してみる ＊テキストの事例をあげて考えてみる →自分に出来ること、対応方法を考える ＊講師の体験を聞く	講師が説明するのではなく、受講生が考える時間を作る ＊どんな答えでも否定しないよう注意 ＊受講生から質問を受ける	どんな配慮が必要かを考えることができたか。
(30分)	手話を学ぶ 今まで学んだ手話を使い講師と会話をしてみる 実際の場面を想像して講師と会話をしてみる	表情、口形に注意 正確に表現できるよう支援 楽しく会話できるよう支援 ＊受講生から質問を受ける	正しい表現か。 わかりやすい表現か。
(10分)	質疑応答	本日の学びで大切なことを繰り返し学ばせる 講座のねらいを確認する	ねらいが達成できたか。
(15分)	本講座全体のまとめ 情報保障(手話通訳・要約筆記)等の制度についてを知る 説明・契約など大切な場面での配慮について知る	再度、本講座の開催目的の話をし主旨をしっかりと伝える 制度としての情報保障についてなど制度の事を参考までに話す	講座全体のねらいが達成できているか。
(10分)	本講座全体の質疑応答 終了		

